慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究 第六十一巻(昭和六十三年自一号至十二号)総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1989
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.62, No.1 (1989. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19890128-0148

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究　第六十一巻（昭和六十三年自一号至十二号）総目次

論説

	号	頁	執筆者
大正デモクラシーと黎明会―黎明会第四回講演会を中心に―	一	一	中村勝範
日中戦争と日本のマスメディアの対応	一	四一	池井優
近代日本社会調査史研究の課題	一	六七	川合隆男
新聞の枠組設定機能に関する一考察―戦後転換期と朝日新聞社説―	一	九七	鶴木眞
強制力と差別	一	一二五	田中宏
権力概念の理論的規定をめざして―〈主意主義〉的視点からの予備的考察	一	一三一	霜野寿亮
脱工業社会のエネルギー・素材、技術、労働―脱工業社会の微視的変動分析―	一	一五五	関根政美
マス・メディアの報道と政党支持に関する計量分析	一	一八九	小林良彰
生活史と「生の記録」研究―ライフ・ヒストリーの解釈をめぐって―	一	二三三	有末賢
近年における日本を中心とした情報交流の変化―ニュース報道と大衆文化―	一	二六三	伊藤陽一
ナチス犯罪の追及と西ドイツ刑事司法―特に、ナチス犯罪追及センターの活動とナチス犯罪者の外泊に関する許諾の問題を中心として―	二	九	宮澤浩一

刑事政策的視点による死刑廃止への一考察……二七　加藤久雄
身柄拘束下における余罪の取調べ……二一〇　安冨潔
—過失作為の行為性に関する一考察—
過失犯と目的的行為論……二一元　井田良
生殖医学の進歩と刑事法上の諸問題……二一五　中谷瑾子
ノート「独居拘禁」……二二〇　坂田仁
同時犯の意義並びに共同正犯の意義及びその範囲……二三五　筑間正泰
毀棄、隠匿の目的と不法領得の意思……二三五　豊田健
時効の制度倫理と援用の問題（一）……三一　内池慶四郎
—梅謙次郎とボアソナードを結ぶもの—
会社の国籍（一）……三三　桜井雅夫
—アメリカの国際投資を中心として—
フランス系ケベックの子供達におけるイデオロギー上の志向と政治的表象……三六　K・S・クルティス／一戸おる・小久保康之訳
寺内内閣期における原・政友会の戦略……四一　中村勝範・玉井清
—解散・総選挙を中心に—
時効の制度倫理と援用の問題（二・完）……四三　内池慶四郎
—梅謙次郎とボアソナードを結ぶもの—
会社の国籍（二・完）……四五　桜井雅夫
—アメリカの国際投資を中心として—
文明史観における政治思想……五七　多田真鋤
黎明会大阪講演会における主張の変化……五元　中村勝範
悔返権をめぐる一考察……六一　利光三津夫
レイモン・アロンにおける歴史＝政治哲学……八七　奈良和重

弔問外交の研究……五　二一七　池井　優
—蔣介石総統の死去と日本の対応—
ネガティブパラダイムとしての政治学……五　一三七　内山秀夫
—一つの政治学論—
「日本社会学会」の設立とその後の経緯……五　一六三　川合隆男
戦後社会史としての海外移住……五　一九三　鶴木　眞
—広島県沼隈町の事例研究—
国家と政治—選擇理論による分析……五　二二五　田中　宏
合意の限界……五　二三九　曽根泰教
エジプト・一九五二年革命における社会経済改革の位置……五　二六七　富田広士
日本社会の国際化と人種・エスニック集団関係……五　二九三　関根政美
アメリカにおける代替的紛争解決運動に関する一考察……五　三二七　大沢秀介
我国の有権者の投票行動と政治意識の決定要因に関する計量分析……五　三五九　小林良彰
律令政治と弾正台……五　三九五　笠原英彦
—奈良朝を中心として—
THE EC INTEGRATION-PROCESS: A JAPANESE VIEW……五　四七〇　田中俊郎
朝鮮半島的展望……五　四八二　神谷不二
「モス・イタリクス Mos Italicus」の法学思想……六　一　森　征一
—中世ローマ法学の正義の学としての側面—
災厄としての自由……六　三七　クリスチャン・ベイ／内山秀夫訳
—西欧世界における自由主義的個人主義の場合—
脱工業社会の経営、組織、人的資源……七　一　関根政美
—脱工業社会の微視的変動分析—
いわゆる外国仲裁判断の効力に関する試論的考察……七　三三　山田恒久
明治十八年・小笠原島兇徒聚衆事件裁判考……八　一　手塚豊

対独開戦と日本外交……八　四　波多野　勝
—加藤外相と海陸軍—
Japanische und deutsche Rechtsauffassungen im öffentlichen Recht……九　一五〇　Carl Hermann Ule　宮島　司
「企業結合」概念の相対性……九　一　H・プリュッティング　石川　明／出口雅久　訳
民事訴訟における裁判官の指摘義務……九　三〇　木村昌人
アメリカ太平洋沿岸実業団渡清（一九一〇年）と日本の対応……九　五〇
—実業界を中心として—
Die Grundsätze des Bonner Grundgesetzes……十　一六六　Carl Hermann Ule　坂原正夫
訴訟終了宣言と訴訟係属……十　一　藤原淳一郎
米国コージェネレーション法制論序説（一）……十　五三
—電力会社による電気購入問題をめぐる主要判決を中心として—
エリック・フェーゲリンの政治哲学（一）……十　八九　寺島俊穂
明治七年司法省第一〇号布達施行直後の伺・指令……十一　一　霞信彦
米国コージェネレーション法制論序説（二・完）……十一　三五　藤原淳一郎
—電力会社による電気購入問題をめぐる主要判決を中心として—
エリック・フェーゲリンの政治哲学（二・完）……十一　七七　寺島俊穂
三・一事件と黎明会……十一　九　中村勝範
レイモン・アロンにおける《イデオロギー批判》……十一　三九　奈良和重
ジンメルと〈一九二〇年代〉……十一　六七　蔭山宏
政治的多元主義と政治……十一　九一　萬田悦生
ワイマル末期におけるC・シュミットの政治的位置について……十一　一一七　中道寿一
世襲代議士と選挙区……十一　一三七　市川太一
—広島二区を中心として—

ヴィットフォーゲルの思想形成……十三　一六五　椿沢栄一
—一九二〇年代初期作品に中国論への出自をもとめて—
ヒュームと保守主義理論……十三　一九七　石川晃司

研究ノート

西ドイツ簡素化法施行後における更新権の制限……六　八〇　石渡哲
—西ドイツ民訴法（ZPO）五二八条の問題点—
不安の抗弁について……十　二五　石川明

資料

明治五年・茨城県大砂浅吉兄弟仇討一件の裁判史料……三　八三　手塚豊
最後の明法紛失状……四　九〇　利光三津夫
スペイン改正手形・小切手法（一）……七　六三　石井陽一
—解題と条文の翻訳—
スペイン改正手形・小切手法（二・完）……八　七六　石井陽一
—解題と条文の翻訳—
明治三年・吉田藩三間騒動の裁判記録……九　七三　手塚豊
ブラジル法、とくに訴訟法の形成およびサンパウロ州の裁判組織についての覚書……十一　一〇〇　ネルソン・ハナダ／森征一／R・ハラダ／訳
（ブラジル法研究　1）
国際仲裁—ブラジル法からのアプローチ—……十一　一二三　I・ストレンゲル／高鳥トシ子／N・オガサワラ／訳
（ブラジル法研究　2）

判例研究

〔商法〕……商法研究会

二八一　振出人欄にA_2によりA_1会社と記載された手形につきY会社が自己を表示するためにA_1会社名義を使用したものと認めた事例……三　九五　近藤龍司

二八二　隠れた取立委任裏書と人的抗弁……四　九六　倉澤康一郎

二八三　民法上の組合の債権債務がその後組合員によって設立された株式会社に承継されるとした事例……六　一〇四　宮島司

二八四　別会社の買収・新設による代表取締役の委任義務違反―山崎製パン事件第一審判決―……七　九〇　黄清溪

二八五　外航船による海上運送中の汐濡れ事故につき堪航能力担保義務が尽されたとは認められなかった事例……八　九九　林群弼

二八六　監査役の対第三者責任……九　九九　岩瀬正通

二八七　従業員は退職時に従業員持株制度によって得た株式を会社に譲渡する旨の会社・従業員間の契約の効力……十　一三五　鈴木千佳子

二八八　いわゆる休眠会社ないしはそれに準ずる会社については特段の事情のない限り商法四〇六条ノ二第一項第二号に該当し，解散判決をなしうるとした事例……十一　一三三　島原宏明

〔最高裁民訴事例研究〕……民事訴訟法研究会

二五八　昭二八・四・二四第二小法廷決定・最高民集七巻四号四三七頁……三　一〇〇　大濱しのぶ

昭六一・七・一七第一小法廷判決・最高民集四〇巻五号九四一頁……三　一〇三　花房博文

二五九　昭二八・四・二三第一小法廷判決・最高民集七巻四号三九六頁……四　一〇〇　櫻本正樹

昭二八・四・三〇第一小法廷判決・最高民集七巻四号四五七頁……四　一〇五　日向野弘毅

二六〇　昭二八・四・一六第一小法廷判決・最高民集七巻四号三二一頁……六　一一九　安田保男

昭六一・五・三〇第二小法廷判決・最高民集四〇巻四号七二五頁……六　一三三　三木浩一

二六一　昭二八・四・三〇第一小法廷判決・最高民集七巻四号四八〇頁……七　九七　河正慶

昭二八10　昭二八・五・一四第一小法廷判決・最高民集七巻五号五六五頁……七　一〇〇　花房博文
二六二　昭二八11　昭二八・五・二九第二小法廷判決・最高民集七巻五号六二三頁……八　一〇八　伊藤敏孝
昭六一8　昭六一・九・四第一小法廷判決・最高民集四〇巻六号一〇一三頁……八　一二四　笠原毅彦
二六三　昭六二3　昭六二・七・一七第三小法廷判決・最高民集四一巻五号一四〇二頁……九　一〇七　坂原正夫
二六四　昭二八12　昭二八・六・二五第一小法廷判決・最高民集七巻六号七五三頁……十　一三三　河　正慶
昭六〇1　昭六〇・七・一九第二小法廷判決・最高民集三九巻五号一三二六頁……十　一三五　宗田親彦　櫻本正樹
二六五　昭六二2　昭六二・七・三第二小法廷判決・最高民集四一巻五号一〇六八頁……十一　一三〇　櫻本正樹
昭六二5　昭六二・一一・二六第一小法廷判決・判例時報一二六五号一四九頁……十一　一三八　宗田親彦

紹介と批評

ウェリントン・W・ニヤンゴニ著『国連システムにおけるアフリカ』……三　一〇八　金子絵美
C・M・ホイ著『個人的自由の哲学――F・A・ハイエクの政治思想』……三　一二五　石丸　徹
アルトゥール・カウフマン編　ラートブルフ全集　一　『法哲学』第一巻……四　一一四　宮澤浩一
木村弘之亮著『租税証拠法の研究』……四　一三三　清永敬次
若槻泰雄著『発展途上国への移住の研究――ボリビアにおける日本移民』……六　一三〇　鶴木　眞
小林茂・寺門征男・浦野正樹・店田廣文編著『都市化と居住環境の変容』……六　一三六　有末　賢
朴椿浩著『東アジアと海洋法』……七　一〇五　李　昌偉
エティエンヌ・バリリィエ著『レ・プティ・カマラード――サルトルとアロンに関する試論』……七　一〇八　奈良和重
手塚豊編著『近代日本史の新研究』Ⅵ……八　一一九　服藤弘司
パスカル・オリィ監修『新しい政治思想史』……九　一一六　奈良和重
手塚豊著作集第九巻『明治法学教育史の研究』……十　一四二　内池慶四郎

石渡利康著『北欧共同体の研究―北欧統合の機能的法構造―』……十　一九　吉武信彦
阪埜光男著『株式会社法概説』……十一　一四七　加美和照
K・ライター著、高山眞知子訳『エスノメソドロジーとは何か』……十一　一五一　霜野寿亮

特別記事

坂田仁君学位請求論文審査報告……四　一九
小此木政夫君学位請求論文審査報告……四　一三六
須藤眞志君学位請求論文審査報告……四　一四四
松井弘明君学位請求論文審査報告……四　一五三
寺崎修君学位請求論文審査報告……四　一六二
加藤富子君学位請求論文審査報告……四　一六六
木村弘之亮君学位請求論文審査報告……四　一七四
慶應義塾大学法学部政治学科の回顧と現況……五　四一七　堀江湛
―政治学科開設九〇年にあたって―
大沢秀介君学位請求論文審査報告……七　一一六
霜野寿亮君学位請求論文審査報告……七　一二三
菊池理夫君学位請求論文審査報告……七　一二七
松田和晃君学位請求論文審査報告……七　一三三